

### Profile



### 秋山 和慶(指揮)

Kazuyoshi Akiyama, Conductor

1941年生まれ。故斎藤藤雄のもとで指揮法を修め、1963年に桐朋学園大学音楽学部を卒業。1964年2月に東京交響楽団を指揮してデビューのち同団の音楽監督・常任指揮者を40年間にわたり務める。その間、トロント響副指揮者、アメリカ響音楽監督、バンクーバー響音楽監督(現在桂冠指揮者)、シラキュース響音楽監督を歴任。サンフランシスコ響、クリーヴランド管、ロサンゼルス・フィル、フィラデルフィア管、ニューヨーク・フィル、ボストン響、シカゴ響、ロイヤル・フィル、NDR北ドイツ放送響、ケルン放送響、スイス・ロマンダ管、チューリッヒ・トーンハレ管などに客演している。

1991年東京響創立45周年記念ワールドツアーでは全公演を指揮して大成功をおさめ、1994年には同団第400回定期演奏会を記念したシェーンベルクの歌劇「モーゼとアロン」(演奏会形式)を指揮、各紙から絶賛を博し同年音楽界最大の話題となった。また同公演のCDは各レコード誌より国内外で高く評価された。ふたたび1996年東京響創立50周年記念ヨーロッパ公演を指揮して同公演を成功に導き、2001年には同団創立55周年トルコ・イタリア公演を

指揮し各地で好評を博した。1997年にシェーンベルク・ヤコブの梯子、ヤナーチェクの歌劇「利口な女狐の物語」(舞台上演形式)、2000年ラッペンマン・歌劇「マッチ売りの少女」(演奏会形式・日本初演)、ヤナーチェク・歌劇「カーチャ・カヴァノヴァー」(原語による日本初演)、2003年にはジョン・アダムズ:「エル・ニーニョ」(日本初演)を取り上げるなど常に新たな挑戦を続けている。

これまでに第6回サントリー音楽賞(1975年)、芸術選奨文部大臣賞(1995年)、大阪府民劇場賞(1989年)、大阪芸術賞(1991年)、第36回川崎市文化賞(2007年)、広島市民賞(2008年)をはじめ、東京響とともに毎日芸術賞(1994年)、第8回京都音楽大賞(1993年)、モービル音楽賞(1996年)、第29回サントリー音楽賞(1997年)を受賞。2001年11月に紫綬褒章、2011年6月には旭日小綬章を受章。2014年度文化功労者に選出。同年中国文化賞(広島)、徳島県表彰特別功労賞を受賞、2015年渡邊暁雄音楽基金特別賞を受賞。

2014年指揮者生活50年を迎え、2015年2月には回想録「ところで、きょう指揮したのは?」(共著/アルテスパブリッシング刊)を出版。

現在、中部フィルハーモニー交響楽団芸術監督・首席指揮者、東京交響楽団桂冠指揮者、広島交響楽団終身名誉指揮者、九州交響楽団桂冠指揮者を務めるほか、洗足学園音楽大学芸術監督・特別教授、京都市立芸術大学客員教授を務めている。



### 藤田 真央(ピアノ)

Mao Fujita, Piano

1998年東京都生まれ。3歳からピアノを始める。

2019年6月、第16回チャイコフスキー国際コンクール、ピアノ部門にて第2位を受賞。審査では聴衆から熱狂的なスタンディング・オベーションを迎えられ、ネット配信を通じて世界中の注目の的となった。

2017年、弱冠18歳で第27回クララ・ハスキル国際ピアノ・コンクール優勝。併せて「青年批評家賞」「聴衆賞」「現代曲賞」の特別賞を受賞。

2016年には、故中村紘子氏が最後に審査員を務めた浜松国際ピアノアカデミーコンクールで第1位に輝くなど、国内外での受賞を重ねている。

初めてのリサイタルを2013年に開催。以降、国内はもとより、各地でリサイタル、オーケストラと共演している。

これまでに、オレグ・カエターニ、リッカルド・ミナーシ、小林研一郎、現田茂夫、飯森範親、大友直人、レイ・ホトダ、クリスティアン・ツァハリアス、リユー・ジア、東京都交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、神奈川

フィルハーモニー管弦楽団、ユタ交響楽団、ローザンヌ室内管弦楽団、マカオ管弦楽団等と共演。

ルール音楽祭、ショパン国際音楽祭(ポーランド)、アッシジ音楽祭(イタリア)、パート・ラガッツ次世代音楽祭(スイス)などの音楽祭に招待されリサイタルを行っている。また2018年夏にはヴェルビエ音楽祭にアカデミー生として参加した。

2018/2019シーズンは、「横浜市招待国際ピアノ演奏会」、Bunkamura30周年記念企画「クラシック・ロシア by Pianos」、「トツパンホール ニューイヤーコンサート」などのガラ公演に出演した他、売売になったヤマハホールでのリサイタルは「聴く喜びを生む 新星の美しい音色」と評された。2018年10月には、スイス、並びにパリのルイ・ヴィトン財団主催New Generationシリーズに招かれ演奏。2019年3月には、カーチュン・ウォン指揮 読売日本交響楽団とラフマニノフ:ピアノ協奏曲第3番、秋山和慶指揮 東京交響楽団とジョリヴェ:ピアノ協奏曲「赤道コンチェルト」を共演し、高い評価を得た。

今後は、飯守泰次郎指揮/東京シティ・フィルとベートーヴェン:ピアノ協奏曲第5番「皇帝」、小林研一郎指揮/日本フィルハーモニー交響楽団とチャイコフスキー:ピアノ協奏曲、モーツァルト:ピアノ協奏曲第20番を共演。今秋に公開される映画「蜜蜂と遠雷」では、風間塵役の演奏を担当することが発表され、話題になっている。CDはナクソス・ジャパンから3枚リリース。

現在、特別特待奨学生として東京音楽大学3年ピアノ演奏家コース・エクセレンスに在学し研鑽を積んでいる。



### 中部フィルハーモニー交響楽団

Chubu Philharmonic Orchestra

中部フィルハーモニー交響楽団は2000年に小牧市交響楽団として発足し、2007年に中部フィルハーモニー交響楽団と改名後、愛知、岐阜、三重の各県で中部圏の音楽文化振興を図るため、個性的なプログラムにより各地で定期的な公演を行い、地域に愛されるプロ交響楽団として活動を行っている。現在の芸術監督・首席指揮者は日本を代表する指揮者の一人秋山和慶。秋山は、2015年には創立15周年記念で大編成のマーラー「復活」を指揮し成功に導いている。2017年度からは2年間4回にわたる「ブラームス・ツィクルス」をスタートし、誠実かつ熱のこもった演奏を行い好評を博した。このうち交響曲第1番と第2番のライブ演奏は「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」で世界に配信されている。2018年度からは定期演奏会をNAGOYA

シリーズ3回、KOMAKIシリーズ2回の計5回実施し、1人の作曲家にフォーカスしたプログラムが目玉されている。また2018年10月には名古屋フィルハーモニー交響楽団第461回定期演奏会にてマーラー作曲「千人の交響曲」に出演し、名フィルとともに見事な演奏を聴かせた。受賞歴としては、愛知県芸術文化選奨新人賞等を受賞。2017年12月に「多年にわたり地方自治の発展に尽力されその功績は誠に大である」として愛知県知事より感謝状を授与された。

### アクセス ACCESS

### 小牧市市民会館

〒485-0041 小牧市小牧2-107  
TEL.0568-77-8205  
休館日:毎週月曜日、年末年始(12/29~1/3)

電車でお越しの場合 ●名鉄小牧駅下車 徒歩10分(800m)

バスでお越しの場合

- 名古屋から 名鉄都市間高速バス桃花台線 小牧駅停留所下車 徒歩10分
- 春日井から 名鉄バス小牧行 小牧駅停留所下車 徒歩10分
- 小牧市内から 小牧巡回バス 市民会館前停留所下車 徒歩1分  
市民会館南停留所下車 徒歩10分

※駐車場収容台数、約400台。可能な限り公共交通機関、または乗り合わせでお越しください。  
※満車の場合は小牧駅周辺の市営駐車場(有料)をご利用ください。